

会報

かけはし

(題字 支部長 神山則幸)

平成30年11月1日

第 49 号

発行者
神山則幸

平成が終わるに当たって

副支部長 沖内 義次



平成元年は一九八九年、私は小学校教頭で、一月七日、天皇崩御

の翌日から元号が平成になり、大喪の礼までの一週間半旗を掲げ、指導要録等証書の元号を修正する作業に追われました。

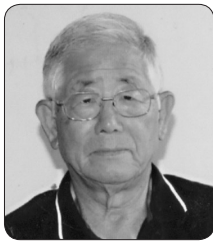
以後三十年、多くのことのあった平成は今年度末に天皇の御退位をもって五月一日新天皇に引き継がれ、新元号に変わります。

退職校長会会員各位はほぼ全員がこの三十年間に学校教育に関わり、貢献してきました。感無量のことと思われます。

私自身にとつては、新米時代に悩まされた「教育内容の現代化」(算数における集合の導入)、「ゆとりある充実した学校生活の実現」

平成元年は一九八九年、私は小学校教頭で、一月七日、天皇崩御の翌日から元号が平成になり、大喪の礼までの一週間半旗を掲げ、指導要録等証書の元号を修正する作業に追われました。

以後三十年、多くのことのあった平成は今年度末に天皇の御退位をもって五月一日新天皇に引き継がれ、新元号に変わります。



各自治体が対応を模索している。「生徒のため」より「教員の負担軽減」が色濃い。夏休み中一切活動

各自治体が対応を模索している。「生徒のため」より「教員の負担軽減」が色濃い。夏休み中一切活動

部活動ガイドラインに思う

藤・戸田班 小柳 孟久

学習指導要領の変遷にはそれぞれの時代背景を受けての懐かしさを覚えます。

この三十年、世界も社会も大きく変わり、学校も本当にきめ細かい教育が行われています。

来年どんな元号になるのか楽しみであるとともに、新学習指導要領の完全実施が円滑に進み、子どもたちにとつても、先生方にとつても本当に充実した教育が行われることを期待しています。

学校のあり方、先生方の働き方にも改革が求められています。

世間は学校が頑張っていることを知っています。子どもを護るのは教職員の目と心しか無いと、ある新聞に書いてありました。

を中止とした自治体も出てきた。

部活動は永い間、学校が担ってきた歴史ある教育活動である。部活動が学校教育活動全般において好影響を及ぼしている例は多い。

体力や競技力の向上にも大きく貢献している。OEC Dが「日本の教育は授業に加え、給食や清掃、

課外活動など幅広い取り組みが子どもの成長を支えている。維持すべき強みである」と評価している。確かに教師は忙しいが、できる限り教師が関わりたい。それには第一に教師の定数増を図ること。

次に、校務全体を洗い出し「専門性(指導)」が必要ない業務は外部に任せる。部活動で教師の指導が困難な場合は、報酬を担保して責任の持てる外部指導者に依頼する。(部活動をカバーする人材を集めることは至難であるが。)

さらに、給特法を止め時間外手当を支給する。時間外勤務時間を他の場で振り替える等は? ガイドラインにも疑問は残る。「技術の追求は地域や民間クラブに任せろ」との事であるが、現状では部活動に代わる程の受け入れ体制は整っていない。クラブにはセレクションがあり経費負担も大きい。能力的・経済的に恵まれない子の行き場は?

学校にはそれぞれの課題がある。教師・生徒・保護者抜きに一律に制限する事は如何なものか?あくまでもガイドラインでありたい。子どもの成長を喜び、後押しするのが教師の役目であろう。

を中止とした自治体も出てきた。

部活動は永い間、学校が担ってきた歴史ある教育活動である。部活動が学校教育活動全般において好影響を及ぼしている例は多い。

体力や競技力の向上にも大きく貢献している。OEC Dが「日本の教育は授業に加え、給食や清掃、

会員短 信

身近な野鳥を求めて

草加班 水澤 恒道

定年退職をしてから、あつという間の六年でした。ここ数年はほぼ毎日、健康の保持を目的に、見沼代用水沿いを歩いていきます。

いざ歩いてみると、身近にも、たくさん野鳥がいるもので、それらを写真に撮っては名前を調べたり、パソコンの壁紙にしたりして楽しんでいきます。

現職の頃は野鳥など気にもなりませんでしたが、『生活の変化で見えるものも変わる』ということを実感しています。今後野鳥を求め、元気に歩き続けたいです。

ファミリーサポーターとして

川口班 秋山 恵子

市のファミリーサポーターに登録して早三年。当初は週一回学童から塾への送迎だった。今では、毎朝七時に保育園送りと週二回保育園と学童から塾への送迎の他に、不定期に一時預かりを依頼され、現在関わっている子供は、一才から小四まで十名を越す。急な依頼も多いが可能な限り引き受けるよ

うにしている。幼い子供との関わりは緊張の連続だが、保護者から「子供がサポーターの日を楽しみにしていることが、親として何よりもうれしい。」とのメールに元気づけられている。

スズメバチ

蕨・戸田班 茂木 則喜

昭和三十年の半ば頃、アオバアリガタハネカクシ、今年にはヒアリの記事を見た。どちらにも襲われたことはない。スズメバチには、二度襲われた。里山の保全活動をしていた時、背中をパシッと叩かれた様な気がした。オオスズメバチだ。二度目なので、アナフィラキシーショックを恐れ、直ちに病院に。これは三年前のことである。今では、刈払材も重く感じられ、保全活動は控えている。年数回のイベントの時、子供達と竹トンボを作ることを楽しみにしている。

スクール・サポーター

川口班 多田出 正

埼玉県警察本部が所管しているスクール・サポーターの活動も二年目になった。設置当初（平成十四年）は、荒れた中学校での支援が中心であり、校内での逮捕事案に遭遇することもあったと聞く。今年には生徒の特性を理解し辛さや

苦しさに寄り添い、反社会的行動や非社会的行動を防ぐ支援が活動の中心になっている。四十名のスクール・サポーターは、警察のOBが多く、校長OB四名を含め教員OBは七名であるが、生徒に対する姿勢・能力は、どちらの立場もまったく遜色ない。現職教員に、その様な視点を持ってないケースが散見できるのが、大変残念である。

通勤電車の読書タイム

川口班 柴田 宏之

虎ノ門にある公益財団法人日本学校保健会の事務局に勤めて三年目になります。通勤ラッシュにもだいぶ慣れてきて、毎日つり革をゲットできるか勝負しています。片道四十分の読書タイムが楽しみになってきました。楽しい本や感動する本がたくさんあります。

若い乗客のほとんどはスマホを見ています。スマホ依存が問題になっていきますが、心身の健康のため、子どもたちには読書の楽しさを伝えて、通勤電車で本を読む人になってほしいと願っています。

超スマート社会を見据えて

川口班 瀧澤 重博

先日、幼保・小・特支学校等の先生方と「第三期教育振興基本計画」をテーマに協議する機会があ

教室の科学とSEEPプログラム

戸田市教育委員会教育長

戸ヶ崎 勤



近年の情報通信ネットワークの発

達やIoT、AI、ロボットの発展等により、Society 5.0や第四次産業革命と呼ばれる大きなイノベーションが生まれています。相互接続されたスマートデバイスやシステムを通じて、スタディ・ログなど様々な情報がデータ化され、ネットワークを通じて集積されてビッグデータとなり、それが解析・利用されることで、新たな付加価値が生まれています。また、ビッグデータが利用可能となったことで、AIによる機械学習の技術が一層発展し、機械による自動化の範囲が飛躍的に拡大しようとしています。

そのような中、「未来の大人」である今の子供たちが身に付けるべき能力は、「今の大人」が身に付けてきた能力と同じでよいはずがありません。今の子供たちには、21世紀型・汎用型・非認知の各スキルを育成すべきであること、そのために、産官学民と連携した知のリソースを常にファーストペンギンを目指して活用し、安価で効率

りました。先生方が関心を寄せ、熱心に語り合っていたことは、教育政策の基本的な方針『夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する』でした。

二千三十年以降の超スマート社会を展望した新学習指導要領の方向性と、そのために教師が子供たちに果たすべき責務を自覚され、明日からの指導に燃える先生方の声や姿勢に感銘したひと時でした。

書齋にて

草加班 佐藤 泰子

『学生時代にできなかったことをしよう』長い職業生活を終えて考えた。まずは、中国への旅行。象形文字の文字博物館や曹操が敗走した太行山脈、紫禁城等、数多くの興味深い体験をして机上の知識がより詳細にイメージ化できた。さらに、書道教諭の不足分の単位の取得、大学院の通信教育課程での学びにゆったり取り組んでいる。転居を機に作った自分用の書齋に現役時代の書籍や写真等を並べ、古いピアノに向かいながら、心浮き立つことをあれこれ考えている。

公立と私立

蕨・戸田班 小松 正明

蕨市立南小学校、蕨市立第一中学校の卒業生。現在六十四歳です。

アルフィの高見沢俊彦君は同級生。教員・教頭・校長と蕨市でお世話になり、定年退職後も再任用校長として一年間勤務させていただきました。

現在、同じ蕨市にある武南中学校で校長として勤務しています。公立・私立と合わせ、蕨市での教職生活は二十二年目となります。公立・私立の壁を越え、蕨市のため、お役に立てればと思います。

保育園施設長として

朝霞班 星場 泰彦

全ての職から退いてホッとしていた夏の終わりに十月開園の施設長を探している話が舞い込んだ。色々悩んだ末、二年になる。0歳児からの身体、言葉、感性や表現、知識や技能の伸長には日々驚き、楽しい。「保育所保育指針」が改訂され、幼児教育機関としての役割が明確にされた。この時期に大切な外遊びでの「原体験」をしつかり体験させたい。また、今注目されている、小学校以降の学力の土台となる「非認知能力」と呼ばれる力や姿勢を育成していきたい。

陶芸とSTEAM

朝霞班 長谷川 裕

転居先の千葉県で県生涯涯大学校へ通ったのが、陶芸を学ぶきっかけであった。一日四時間の週二回、五年余り通い続けてきた。「土と火と水の芸術。」こんな言葉に誘われて始めたが、見るとやるのでは大違い。年数を重ねてもなかなか上達しない。それでも黙作の中で、自己満足に浸っている。陶芸にも違った楽しみがある。仲間との窯元見学旅行。公民館での小学生陶芸講座では、陶芸の楽しさを体験してもらっている。陶芸ライフを楽しむ日々である。

今のごま

川口班 関根 要造

退職後もいまだ学校から離れられず、東岩槻にある中高一貫校に勤務し十八年め。現役時にも増して今やさらに勉強し、若者たちとの出会いに若さを吸収して青春真っ只中という日々が続く。
・ 現任教講師 週四日
・ 進学塾講師 週四日(夜)
・ 書道教室(自宅) 週二回
・ 刻字教室(川口) 隔週
・ 私の作品展(本年は第二十五回)(インスタ荅華コレクションを検索)
○ 人生への歓喜と興味と夏燃ゆる



的に最先端の質の高い教育を目指していききたいと考え、戸田市PERカリキュラムの推進など、この三年間実践を重ねてきました。今後は、教室や授業を科学し、教師の個人プレーに頼らず、ベテラン教師の「匠の技」をエビデンスベースで可視化・定量化し若手に効率的に伝承したり、産官学と連携したデジタルサイエンスの活用等で、教育のオープン・データ化などにも挑戦したりしたいと考えています。

また、「戸田型SEEPプログラム」も導入していきます。SEEP(浸透)とは、STEAM教育(Science, Technology, Engineering, Art, Math)の教科横断的な学び、Ed Tech(Education × Technology)による効率化・個別最適化された学び(など)、EBPM(Evidence-Based Policy Making 客観的根拠に基づく政策立案)、PBL(Project-Based Learning 課題発見解決型学習・無から有を創造する教科の枠を超えた実践的教育)の四つの頭文字をとったものです。

さらに、教育を行う場所は学校だけでなく、家庭や地域(塾など)でも可能になるような学びの場の越境型PLD(Personal Learning Data)の活用や環境づくりも夢見ています。

支部だより

◆第一回理事会より

本年度第一回理事会は、九月十四日(金)川口市立並木公民館に於て開催され、来る十一月二十二日(木)実施される「教育推進協議会」について、先の準備委員会(七月六日)の原案に基づき慎重に審議され実施要項が決定された。また、会報「かけはし」の現況や各専門部の本年度の活動内容や方針等について報告された。

◆教育推進協議会提案者決まる

主題「現下教育の諸課題」に関して次の方々が各会を代表して貴重なご提案をされます。

- ① Society5.0 社会に生きる子供を育てる学校経営
戸田市立笹目東小学校 高橋博美校長
- ② コミュニティスクールと凡事徹底
新座市立第四中学校 高橋利明校長
- ③ 草加市立歴史民俗資料館における教育普及
退職校長会草加班 細川昭三元校長

(安東幸甫)

ご冥福をお祈りいたします

6/25以降亡くなられた方々(9/30現在)
伊藤 高義様(蕨・戸)8/2 八十七歳
駒崎 高造様(川口)9/6 八十三歳

班だより

◆蕨戸田班

今年度新会員五名を迎え、会員八十三名、秋山亜輝男会長のもと「会員の親睦と地域教育の推進に協力する」を目的に活動を展開している。主な活動を紹介します。

◎研修旅行

親睦と自己啓発を目的として毎年一泊二日の研修旅行を実施。安・近・短が Motto。昨年は信州白樺湖温泉方面である。近隣の美術館で神秘的でファンタジックな作品を鑑賞。しばし、童心に。翌朝の車山高原からのアルプスは自然が織りなす絶景であった。

◎散歩の会

秋(県内)
二十九年 忍城址とその周辺
三十年 大宮盆栽美術館
春(都内)
二十八 築地界限
二十九 千住界限

担当者の綿密な調査と郷土史家等の活用で毎回新しい発見があり、頭と足の健康に最適である。

◎会員相互の近況周知

各種懇親会のしおりに、会員の近況を掲載。懐かしそうに目を通す姿が印象的。欠席者にも送付。

会員意識共有に効果を上げている。
◎地域教育への支援等

蕨市の「蕨学校土曜塾」への協力をはじめ、教育支援員、放課後学習教室等、学校サポートを通じて地域教育の推進に協力。

他に、ゴルフを通じた現職校長や他班との交流も行っている。

(文責 前田一男)

◆草加班

新会員七名を迎え、会員数百一名(併会員十名)で、加藤慶隆会長のもと「草加市の教育振興への協力・支援と会員の親睦」を目的に活動している。

◎協賛事業の支援・充実

▼草加市の教育振興の推進・実現の為に、会員の豊富な教育経験を活かした支援と継続。

▼草加寺子屋(土曜学習・小学生対象)各校、中学生対象の放課後学習・ブロック)事業への支援

▼放課後児童クラブ事業等に協力
◎草加班の主な活動

○総会・懇親会 五月十二日(土)

総会後、高木教育長より「第二次草加市教育振興基本計画」外国語教育ブランドデザイン」について講話をいただきました。

○蓮実頌吾会員によるフルート独奏
○クラブ活動(ゴルフクラブ)例



会開催と支部大会等参加へ
○行政への要望書の提出
○三十年忘年会 十月一日(土)
○三十年度
草加市現職・退職校長研究協議会(平成三十一年二月下旬予定)

○有志による『言志四録』読書会(毎月第三月曜日)は開講二年目になる。
(文責 佐藤高次)

あとがき

四十九号をお届けいたします。ご多用の中、玉稿を賜りました各位に、心から御礼申し上げます。九月六日には北海道南西部で、最大震度7の地震が発生し、多数の犠牲者、被災者が出ています。皆様と共にご冥福をお祈りし、お見舞い申し上げます。日本全国で様々な災害に見舞われ、「統計上初めての記録」と解説されると、一層不安が募ります。十一月七日は立冬。立冬が過ぎると駆け足で冬がやってまいります。ご自愛ください。(羽富正晃)